

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○10月30日～

為替相場は膠着状態が続いています。

ドル／円は介入警戒感があるため150円台では上値が重く、上値トライの動きは続きませんが今週は日米で金融政策の決定があるため動きが出るかもしれません。

日本は消費者物価指数を見る限り、そろそろ政策転換してもいいところまできているように感じます。日銀展望レポートで物価見通しがどうなるかも注目です。

そして、イールドカーブコントロール(YCC:長短金利操作)についても今後さらなる修正の可能性もあり、出口戦略に向けて、一步を踏み出す動きになれば相場にも影響が出そうです。

米国は、長期金利の上昇が続いていることもあり、さらなる利上げは必要ないという意見も出てきています。

10月に入って長期金利が5%を超える動きも出ており、米国株にはかなりの逆風となっています。

11月の利上げについては据え置き予想が多く、大きなサプライズはないかもしれません。

今月に入って、中東の地政学的リスクが高まったこともあり、株価は軟調な動きが続いています。金融政策を見極めるまでは投資家は積極的に動きにくいですが日米の金融政策の結果次第で、流れに大きな変化が起こる可能性もあります。

中東リスクの高まりや米国の長期金利の上昇から株価下落、さらなる円安というシナリオもある一方、今月下旬が続いた株価が底打ちし、米国の金融政策に特に変更がなかった場合、ドル高がおさまってくるかもしれません。

どちらにも動きが出る可能性があるため週初めにポジションを大きく傾けるのはリスクが高いため控えたいです。

また、今週は米国で雇用統計、欧州ではGDPや消費者物価指数など注目指標の発表も多く、ニュース次第で慌ただしい動きになるかもしれません。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週のドル／円は150円台後半で頭打ちとなった後はじわじわと下げて、149円台でマーケットが終わっています。

150円を挟んだ高値圏での動きが続いています。

昨年の高値が151.9円あたりなので、151円のせとなるかどうかにも注目したいです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

ただし、買っていく場合は、150円台ではなくて、150円以下の下がったところを狙っていきたいです。

下値が148円台後半を維持している間は強い動きが続きそうです。

148.5—151円程度のレンジを意識しながらトレードしたいです。

ニュース次第で上がったり、下がったりの動きが出る可能性もあるため利益確定のタイミングを逃さないように指値などを入れておくと安心です。

<気になるクロス円>

クロス円は先週下げてきているペアも多く、慌てて買うより、チャートを確認しながらタイミングを見たいです。

カナダドルは107.5円を割り込むと、さらに下がるリスクもあるので注意がいります。

クロス円は株価が軟調な動きとなると下げやすく、米国株や日本株が下がってきている時は慎重に取引しないと危険です。

安値更新の動きが出た場合は、買いよりも売りを検討した方がいいかもしれません。

NZドルも週足、日足ともにチャートの形があまり良くないので、買いはしばらく様子見がいいかもしれません。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀金融政策決定会合、日銀展望レポート、9月鉱工業生産、植田・日銀総裁定例会見などがあります。

米国では7—9月期四半期雇用コスト指数、8月ケース・シラー米住宅価格指数、10月シカゴ購買部協会景気指数、10月消費者信頼感指数、10月ADP雇用統計、10月製造業PMI(改定値)、10月ISM製造業景況指数、9月雇用動態調査、FOMC政策金利、パウエル・FRB議長定例会見、前週分新規失業保険申請件数、9月製造業新規受注、10月雇用統計、10月サービス部門・総合PMI(改定値)、10月ISM非製造業景況指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで7—9月期GDP(速報値)、10月消費者物価指数、10月製造業PMI(改定値)、ドイツで9月小売売上高、ユーロ圏で10月消費者信頼感指数などがあります。

ほかにはカナダで8月GDP、英国で政策金利の発表、英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨などがあります。